

COVID-19 感染拡大に伴う学校教育現場における 生徒の心身への影響

徳珍温子、森田美紀（大阪信愛学院保健センター（中・高等学校保健室））

I. はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢市に端を発し、世界各地に拡散した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、その後、特に欧米で深刻な状況となり、2020年3月11日にWHOよりパンデミック宣言が出された。我が国においても、2020年4月7日に緊急事態宣言が発出された¹⁾。

緊急事態宣言に伴い、学校での授業を行うに当たっては文部科学省より2020年4月10日付で「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開のガイドライン」が公表され、「三密（密閉・密集・密接）を避け基本とし、学校としての施設・衛生上の管理指針及び学生においては、マスク着用、手洗い、身体的距離の確保、換気、健康管理など、遵守すべき必要な行動指針が定められた。マスメディアをはじめ様々な場でCOVID-19に対応した「新しい生活様式」が言われているところである²⁾。

キャリア進学により2020年8月28日～2020年9月16日に実施された高校教員に尋ねた「新型コロナウイルスによる進路指導への影響」において進路指導への影響は、回答者全体では「とてもある」「ややある」が合わせて93.1%となり、ほとんどの教員が、影響を受けていると回答している³⁾。

本学の高等学校においても、休校やオンライン授業など、感染拡大防止策として1学期の多くが対面での授業が実施されず、学校教育現場における生徒の心身への影響はあると想像されるが、どのような影響であるかを明らかにしなければ、より適切な介入を行うことは困難であると考えられる。

本研究は「心身への負担感」「進学に関する学習環境への影響」に焦点化し、適切な介入の資料とすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 方法

協力意思を示したA高等学校2年生32人に対し、研究者が実施する医療・看護入門の授業の終了後、5分程度を用いて「心身への負担感」「進学に関する学習環境への影響」について、A4用紙1枚程度のレポートの

作成を求めた。

2. 研究対象

研究への協力の意思を示したA高等学校2年生19名のレポートを分析の対象とした。

3. 期間

令和3年1月

4. 分析方法

無記名で記載されたA4用紙1枚程度の「心身への負担感」「進学に関する学習環境への影響」レポートそれぞれについて、テキストマイニングソフト（KH-coder）を用いて抽出語の階層的クラスタ分析と、一つ一つの文書で出現する単語「抽出語」のうち、「距離」が近いかわ遠いかわを計算し共起ネットワークとして図示した。共起ネットワークでは距離の近さを線の太さで、係数を数値で示している。

4. 倫理的配慮

本研究は、大阪信愛学院短期大学倫理委員会にて承認を受けている。また、本研究計画書と同様の内容について、本研究計画書及び倫理審査申請書の写し及び審査結果の写しを研究対象者の所属している高等学校に提出、倫理審査を受けて実施する旨を説明し承諾を得ている。（承認日2021年1月11日、承認番号R2-08）

利益相反に該当する企業・団体等はない。

III. 結果と考察

1. COVID-19感染拡大に伴う心身への負担感

「心身への負担感」について、18人よりレポートの提出があった。レポートは30文。17段落で、総抽出語数は574で、異なり語数は191であった。

抽出語から階層的クラスタ分析を行った結果、6つのクラスタに分類された（図1）。また共起ネットワークについても図に示すとおりである（図2）。

階層的クラスタ分析による6つのクラスタについて、抽出語とレポートに記載された文脈から象徴している意味を共同研究者間で検討し、命名した。

クラスタ1「外出ができないことへの負担」、クラスタ2「祖父母に会えない辛さ」、クラスタ3「消毒で大丈夫なのか」、クラスタ4「自由に外に行けない

ストレス」とした。また、クラスター5「オンライン授業は感染予防になる」、クラスター6「通学の電車の怖さや不安」とした。

また共起ネットワークでは、図で上左に「他者から見られることによる自由な行動の制限とストレス」や、上中央の「祖父母に会えない辛さ」、上右に「消毒で大丈夫なのか」というネットワークと、下中央に「オンライン授業が感染予防になる」と右下の「通学の電車の怖さや不安」が示された。

COVID-19 感染拡大に伴う生徒が感じる「心身の負担」について、クラスター1・2・3・4が、主に学校以外であり、クラスター5・6は学校に関連するものであった。

クラスター1「外出ができないことへの負担」、クラスター2「祖父母に会えない辛さ」は人とのコミュニケーションを含めた制約がある生活での物理的・心理的負担が示された。思春期では、勉強以外において友人関係が学校生活の大部分を占めることが認められる。しかし、学校が通常通りの体制で行われているため、友人に対する意見は出なかったことから、学校が通常通りである利点はあると考える。

クラスター3「消毒で大丈夫なのか」、クラスター4「自由に外にいけないストレス」は、感染予防対策への不安感や行動の制限による心の負担が示された。これらは学校外での負担との結果が得られたが、学校生活での影響は予想される。心のケアについては、学校が適切に取り組むこと²⁾とされているが、過剰適応の傾向や不安を感じやすい生徒等、訴えが表面化しやすい生徒のみならず、新しい生活様式に伴う全体に向けてのメンタルヘルス対策を講じる必要あると考える。

クラスター5の「オンライン授業が感染予防になる」については、生徒たちは新たな学習環境に柔軟に対応する力を示した一方、教職員が COVID-19 感染症対策のために、あらゆる機会に ICT を最大限に活用し、学習の保障に努めた結果を肯定するものであったと考える^{4) 5)}。また、「感染予防になる」といった主体的な安全意識につながる考え方に至っていること、すなわち、セーフティプロモーションに至る考えが表れているのではないかと考える。

一方、小学校や中学校とは異なり高等学校では通学において公共交通機関を利用する生徒も多く、また、通学時間と通勤時間が重なるため、クラスター6「通学の電車の怖さや不安」という結果に結びついたものと考えられる。

2020年4月7日に、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に発令された緊急事態宣言では、都道府県によって対応は異なるが、大阪府下においては、多くの学校が休校や時間短縮や分散登校といっ

た対応がとられた。しかし、今回の2021年1月13日に、大阪、兵庫、京都、愛知、岐阜、福岡、栃木の7府県に緊急事態宣言の発出については、学校は通常通りとすることを基本としているため、「密」を避ける必要性は理解しているが、遅刻などの学習上不利になる状況を回避すべく、不安や恐怖を抱きながら、公共交通機関を利用するという心身への負荷を感じていることが分かった。

2. COVID-19 感染拡大に伴う進学に関する学習環境への影響

「進学に関する学習環境への影響」について、16人よりレポートの提出があった。レポートは16文。15段落で、総抽出語数は183で、異なり語数は83であった。

抽出語から階層的クラスター分析を行った結果、3つのクラスターに分類された(図3)。また、共起ネットワークは図に示すとおりである(図4)。

階層的クラスター分析による3つのクラスターについて、抽出語とレポートに記載された文脈から象徴している意味を共同研究者間で検討し、命名した。

クラスター1「グループワークが減る」、クラスター2「オープンキャンパスに参加できない」、クラスター3「オンライン授業については特にない」とした。共起ネットワークについても同様の結果が示されている。

クラスター1「グループワークが減る」については、「三密(密閉・密集・密接)を避ける」を基本とした対応であったため、実施が困難であった。グループワークについて「学習は、本来、学習する者が自ら発し、自らが活動して行うものであるが、講義形式による知識を注入される学習方法では、学習者は受け身のままで主体的にはならず、学習者個々の個性的な思考はおしならされたままである。これに対し、グループワークは、注入され、承るだけの学習を、学習者の活動として主体化し、学習者相互のやり取りによって一層活性化することに役立つ。グループワークは、メンバー相互の話し合い、双方向での関心の交流を通して、参加者全員が持つ経験や背景を共有させることにより、課題の解決を図ったり、相互の共感を共有することによって学習、動機づけ、必要な態度の形成に至る」ことが意義や目的とされている⁷⁾。したがって、グループワークに代わる新たな主体的な学習支援の方法や、安全なグループワークの方法を構築していく必要があると考える。

クラスター3「オンライン授業については特にない」は COVID-19 感染拡大に伴う心身への負担感のクラスター5と同様に、否定的ではないことから、生徒たちが ICT 活用した教育に柔軟に対応できていると考

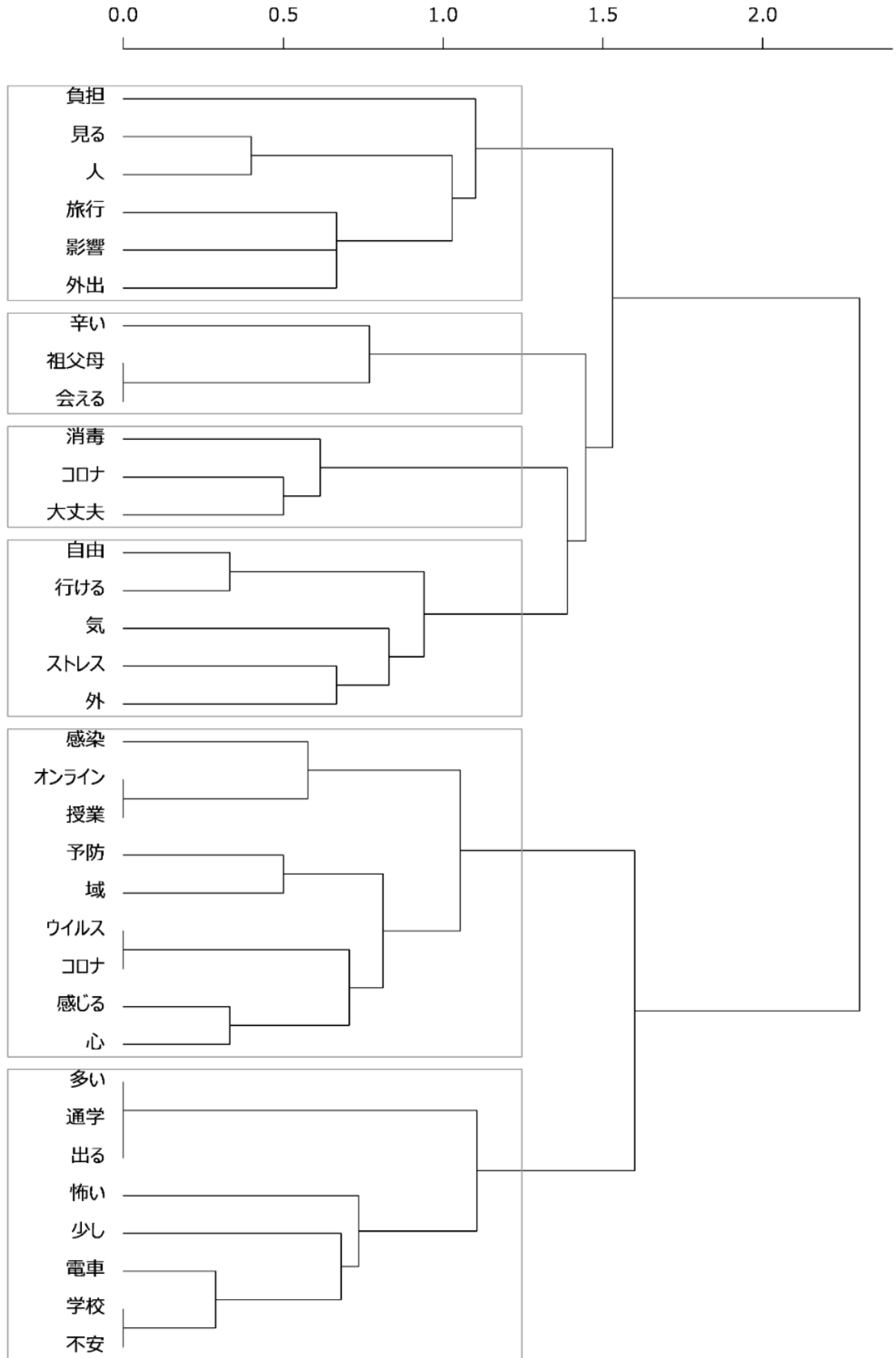


図1 「心身への負担感」階層的クラスター

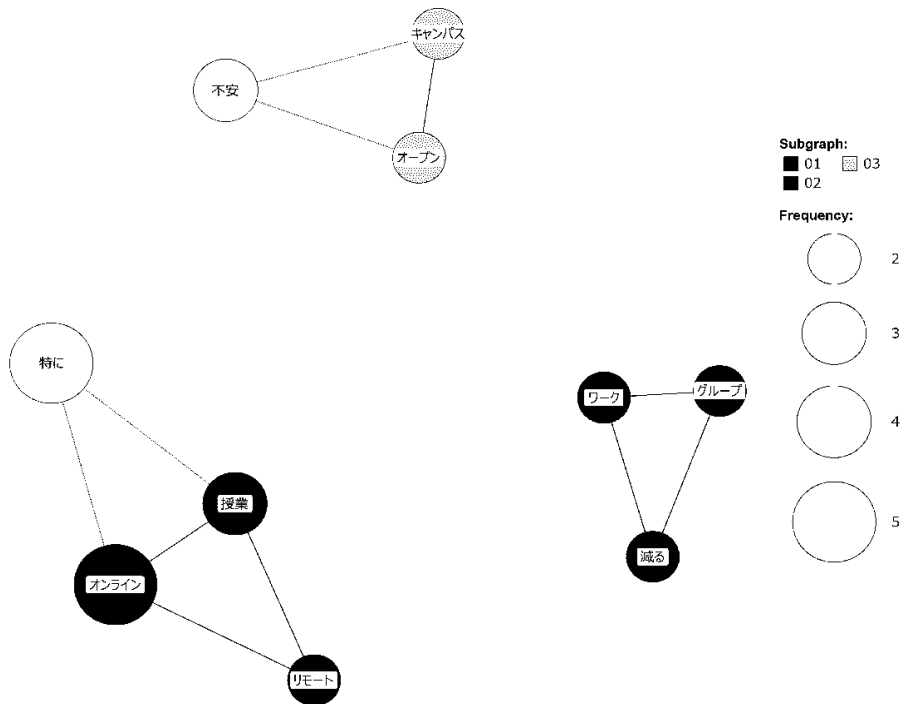


図4 「進学に関する学習環境への影響」共起ネットワーク

える。また、先述した、COVID-19感染拡大に伴う心身への負担感の結果の、クラスター5「オンライン授業は感染予防になる」、クラスター6「通学の電車の怖さや不安」と関連付けて考えるならば、オンライン授業を肯定的にとらえている。

一方、クラスター2「オープンキャンパスに参加できない」については、生徒が進路を考えるための情報が十分でないと感じていると考える。Webオープンキャンパスなどが様々な大学で行われているが、実際に大学に足を運ぶことに比べて、情報量が少なく、「知らない」「わからない」大学への進学に対して、肯定的な反応にならないのではないかと考える。リクルートの調査からも、Webオープンキャンパスの情報量の不足と知っている大学への進路選択という本研究と同様の結果が示されており⁸⁾、高等学校は、安全に十分な配慮を行ったうえで、生徒の多様性を重視した進路選択および進路指導が提供できるような工夫が必要であるとともに、大学等においても、必要な情報が伝わるWebオープンキャンパスが求められていると考える。

IV. おわりに

今回の調査において、生徒がリモート学習やオンライン授業に対して、感染防止対策となるという肯定的な感情を示していることが分かった。一方、公共交通機関を利用することに対するCOVID-19感染への不安や恐れを抱いていることが分かった。教職員は、学校という生徒が所属する社会において、身体的・精神的

に健やかに発達を支援する教育活動として、どのような対策が必要かを、社会全体の状況を勘案し、常に検討して今なければならない。

そして、本研究対象者の選定にあたって、当初は高校2年生だけでなく3年生も研究対象者として考えていたが、政府は2021年1月13日に、大阪、兵庫、京都、愛知、岐阜、福岡、栃木の7府県に緊急事態宣言の発出を決定し、2021年1月13日に1月14日から2月7日までの期間とされたため、高校3年生の3学期の自宅学習期間が、繰り上げての開始となり、高校3年生を対象とする調査の実施ができなかった。したがって「進学に関する学習環境への影響」について、十分な意見を聞き取ることができていなかったと考える。また、研究の対象者の検討や、「進学」という言葉を外した問いかけであったほうが、より多くの意見を収集することができたのではないかと考える。この点がこの研究の限界であり、今後の検討課題である。

V. 謝辞

本研究に協力いただいた、高校生の皆様、高等学校の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

引用・参考文献

- 1) 一般社団法人 日本環境感染学会 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第3版 2020年5月7日

- 2) https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000006156_pdf
 - 3) https://www.disc.co.jp/.../2020/11/shinros_hido_2020.pdf
 - 4) https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_kouhou01-000004520_6.pdf
 - 5) https://www.mext.go.jp/content/20200427-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf
 - 6) https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200515-3_Mext.pdf
 - 7) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryokukaihatsukyoku/0000090853.pdf>
 - 8) <https://shingakunet.com/ebook/cm/225/index.html?openpage=17-27>
-

受理 2021年2月12日

公開 2021年3月4日

<連絡先>

徳珍 温子

〒538-0053 大阪府大阪市鶴見区鶴見 6-2-28

大阪信愛学院短期大学

E-mail : atokuchin@osaka.shinai.ac.jp

